

中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文 学 部	身 分	准教授
氏名	石橋悠人		
NAME	ISHIBASHI Yuto		

1. 研究課題

（和文）植民地統治と時間改革——イギリス帝国を事例に

（英文）Colonial Governance and the Reformation of Time in the British Empire

2. 研究期間

2年間（2018-2019年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究では、イギリス帝国の植民地天文台が時間の標準化に対して果たした役割を明らかにする。植民地天文台の建設は、18世紀から19世紀を通して継続的に行われた。申請者はこれまで各天文台の設立経緯や活動内容、グリニッジ天文台との関係性に関する予備調査を行ってきた。これにより、イギリス領植民地では各天文台が拠点となり公共時計や時報技術が各都市に集中的に設置され、正確性の高い時間を伝達したことが明らかになった。本研究では、とくに時間改革について積極的な活動を行ったシドニー、ケープ植民地、ボンベイの各天文台に関する立ち入った分析を行う。この作業を通して、イギリス帝国の天文学ネットワークが、植民地で時間の標準化・正確化を促進し、時間規律の浸透を通じた植民地統治に寄与したことを明らかにする。

成果の発表

口頭報告 2018年9月29日 「時間の帝国——ブリティッシュ・ワールドにおける「時間改革」の展開」

2019年3月10日 「イギリス帝国における時間の標準化」中央大学・学術シンポジウム「グローバル文化史の試み」研究会、中央大学人文研プロジェクト「東方思想の発展と交錯」共催

（英文）

This study will consider the role of the British colonial observatory in time standardization. The construction of the colonial observatory continued throughout the eighteenth and nineteenth centuries. In the British colonies, each observatory served as a base for practical research, and public clocks and time signals were intensively installed in each city to transmit time with high accuracy. In this study, we will conduct an in-depth analysis of the observatories in Sydney, Cape Colony and Bombay, which have been particularly active in time reform. This work reveals that the British astronomical network promoted time standardization and accuracy in the colonies and contributed to colonial rule through the dissemination of time discipline.